一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和 3 年度第 11 回 理事会議事録

令和 3 年 11 月 29 日（月）20:00～22:30

浜松医科大学整形外科学教室

【出席した理事】伊東　学、大鳥精司、小田剛紀、川原範夫、西良浩一、田中信弘、
髙相晶士、筑田博隆、千葉一裕、西田康太郎、根尾昌志、
長谷川和宏、波呂浩孝、松山幸弘、山田　宏、渡辺雅彦
【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】
理事長・松山幸弘が議長となり、開会を宣して議事に入った。

審議・決議事項

1.　前回議事録の確認
前回議事録について確認を求めた。修正等ある場合は、渡辺理事へ一報する。

2.　メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（10月分）
10月の入退会について全員を承認した。

3. 倫理委員会より：規定の改定について
倫理委員会規程について厚労省の指針変更等に合わせた修正箇所を説明した。
さらに、倫理委員会規程第4条に「規程の変更は委員会で定める」とあるため、今回もこれまでと同様、定款等検討委員会を通さず理事会直でよいのかどうかの再確認を依頼した。議論の結果、今回の倫理委員会規程の改定については理事会承認とし、小田理事から「規程の変更は委員会で定める」の部分を変更した最終案を事務局へ送りホームページへも掲載することになった。今後は倫理委員会で変更案を作成し、定款等委員会で文言を検討する。

4. JSR委員会より：抄録集のペーパーレス化に伴う準備
①抄録集のペーパーレス化とアプリ制作について
『JSR』について3号（抄録集）以外はすでに電子化されているが、抄録集の紙媒体についても今年が最後であり、2022年からは完全電子化となることを説明した。そして、会期前後に行われている現状の業務とその関係業者、さらには今後の予定について説明した。

・来年も現状と同じタイムスケジュールで進む予定である。
・2022年については、大正製薬株式会社の補助で発刊しているポケット版の冊子がまだあるが、再来年については確約されていない。2023年以降について学会自身がプロセスを決めておく必要がある。
・ペーパーレス化に伴って、費用は大幅削減の見込みであるとしてその金額を示した。

現状と今後についての詳細や不明点について多くの質疑応答がなされ、議論の結果、杏林舎がいま行っている部分については今まで通りデータを作ることが承認された。
アプリの制作会社については、12月に行うJSR編集委員会でのコンペののち理事会でも検討していく。コンペでは委員全員が実際アプリを使って、使いやすさを確認する予定である。

②抄録集のJ-STAGEの掲載の仕方について
抄録集をJ-STAGEに「項目ごとにファイルを分けて掲載する」場合と「ひとまとまりで掲載する」場合の見積もりを示した。議論の結果、多少費用はかかるが使いやすい「ファイルを分けて掲載する」ことが承認された。

③抄録集のアーカイブサイト掲載時期について
抄録集のアーカイブの掲載時期について議論した。その結果、現在同様、取り下げ演題や演者の変更等をすべて反映した最終版を載せることで意見が一致した。その場合掲載時期は学術集会終了から数か月後となってしまうが、暫定抄録はアプリで見ることができるため支障はないだろうと結論した。

5. SSRR委員会より：JSSR学術集会プログラム英語版追加
当学会学術集会ではどのようなトピックが議論されているか国外にも周知するため、学術集会プログラム英語版を追加掲載する『SSRR』ホームページ（案）を紹介した。一同賛成し承認した。

6. 大正アワードについて 応募要項に追加すべき文言の検討
2022年の学術集会で表彰予定の大正アワードについて「日整会の奨励賞にも同時に申請したいが問題ないか」との問い合わせがあったことを報告した。他の賞との同時申請については現状の応募要項には明文化されていないため、選考委員会内で検討したところ「他の賞への申請は可能であるが、その旨を申請書に明記する必要がある」という意見と「同時申請は認めない」という意見に分かれたが、前者がやや多かったことを示した。
一同検討の結果、選考委員会の多数意見（前者）を採用することになった。

7. その他

・今後のDB運用での人件費およびそのための協賛企業の新規募集へむけてWGの設立について

JSSR-DBの運用で今年300万円程度の予算が、来年には1000万円以上になる試算であること、JOANRの経費として日整会へ支払う費用が、今までの20万円から100万円になることを報告した。そのため企業からの資金協力を求めたいとし、WGを創設して、企業がどのような形であれば資金援助をしてくれるか等を検討していくことを提案した。議論の結果、今後DBに限らず学会が収入を得ていく方法を検討するWGの創設が承認された。合わせて、WGの人選は渡辺理事が行い、理事会にて後日審議することになった。

千葉理事が、システムのちょっとした変更をしたり、学会活動の様々な分野でアドバイスをしたりしてくれるITの専門家を雇うことを提案し、今後検討していくことになった。

・『SSRR』の賞を創設することについて

英文誌編集委員会内の意見として、『SSRR』の賞を設けたいと提案し、一同賛同した。どのような賞にするかはまず委員会で議論する。

3. 審議・報告事項

1. 社会保険等システム検討委員会報告

当学会が申請主団体であった脳脊髄液漏出症に対するブラッドパッチについて、脳神経外科の某学会が当学会に相談なく高額の改正要望を出し、それに伴い主団体としての当学会の名称を削除したことを報告した。調査するとその学会は経緯を知らなかったようで、先方から謝罪があった。現状を勘案した結果、要求はそのままとして静観することになった。

2. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

秋に開催されている脊椎関連の多くの学術集会をまとめて行った場合の費用について、コンベンション会社3社から意見を聴取したが、全社とも「学術集会を一緒にする学会が多いほど、費用削減の効果は大」との回答であったことを説明した。

それぞれの学会の代表者（当委員会の委員）からの意見は、全員が「前向きに検討する」とのことだった。しかし、これに対して各理事から多くの意見・懸念が出された。議論の結果、当面学会統合ではなく、学術集会を合同開催することを目標とすることを理事共通の認識とし、今後も委員会における各学会の意見を理事会へ報告してもらい、進捗を確認していくことになった。

3. 国際委員会報告

伊東理事が、Spine20・NASS・APSSの情報についての現状を報告した。

① Spine20

JSSRの立ち位置がはっきりしていなかったので、以下のように決議してもらった。

・4つの「ファウンディングソサエティ」に加えて、日本・メキシコ・オーストリア・サウジ・ヨーロッパ・ギリシャの脊椎学会からなる「パートナーシップソサエティ」を作る。その「パートナーシップソサエティ」の中にリーダーとなる「リーディングソサエティ」を定める。

・「リーディングソサエティ」は、「パートナーシップソサエティ」のリーダーであるだけでなく議長国という立ち位置である。それを日本（JSSR）が務める。

・それらの国をまとめて、今まではなかった議決権を1票もらうことになった。

・金銭的なオブリゲーションはない。講師の派遣等で支援する。

・伊東理事が「パートナーシップソサエティ」のチェアを3年間務める予定である。

② NASS

・NASSでは、今後Spine across the sea以外にもJSSRとともに開催するイベントを増やしていきたいという要望がある。

③APSS

・JSSR会員のAPSSへの入会を促進してほしいという依頼があった。各理事にも近くの先生方に声掛けをお願いしたい。本件については、国際委員会から別途依頼する。

4. プロジェクト委員会報告

山田理事が、各プロジェクトの進捗状況を報告した。どのプロジェクトも症例登録が比較的順調に進んでいる。

5. 英文誌（SSRR）編集委員会報告

審議・決議事項で検討済。

6. 倫理委員会報告

小田理事が、倫理委員会における研究者のCOIの審査手順について報告した。特に特定企業の製品についての研究は、COIのある医師が関わるのは避けた方が良いものの、実際先行使用している医師でなければ研究できない側面もあり、そのような医師にはCOIがあることが多いという難しい面がある。

松山理事長が、顧問弁護士の一人である大磯先生を通じて日本医学会利益相反委員会委員長の曽根三郎先生に聞いてみたとして、その回答を以下のように述べた。

・将来的にはすべてのCOIを開示していく必要があるが、現時点ではCOIを開示するか否かは学会で話し合えばよい。

・隠すのが一番よろしくないので、学会内で必要と判断された研究者等については包み隠さずCOIを開示してもらう。ただしCOIがあったからといって研究ができなくなる、ということにはならない。COIを開示したうえで「その研究にバイアスがどの程度かかっているか」は読者の判断に任せればよい。
・学会での研究は、治験とは違い臨床研究法に縛られないので、現状JSSRで行っているようなCOIの聴取方法で問題ない。
また、大磯先生ご自身のコメントとしては、最終的にはCOIは全開示の方向ではあるが、現時点では流れを見てからでよいというものだった。

川原理事が、先ごろ日本医学会から送られてきた改訂予定のCOI管理ガイドラインの案には「組織COI」についても言及されていたが、JSSRでは現在組織（学会）としてのCOIは開示していない現状があると説明した。日整会でもまだ改定作業をし始めるという段階で、来年3月までには規程を作る予定である。
また、倫理委員会と利益相反員会の関係については、倫理委員会がCOI開示を必要とした研究については、倫理委員会からCOI委員会へ研究計画書もつけて審査を依頼し、COI委員会の審査結果を倫理委員会へ報告してもらえれば、その後の倫理審査もスムーズになると考えると説明した。

上記のCOIが絡む研究の様々な問題について、一度倫理委員会で議論してもらってから再度理事会で検討することとなった。

7. 安全医療推進委員会報告
貸出手術器具とプリオンについて話し合っているが、現場と厚労省のガイドラインとの間で乖離がある。ガイドラインに書いてある通りに実行しようとすると、業者側で費用がかなりかかることがわかったこともあり、日整会とJSSRの安全医療推進委員会で合同して対策を検討していく。

8. 広報委員会報告
前回以降のホームページ更新状況を報告した。日整会依頼の患者向けパンフレットについては委員会内にて校正中で、終了したら日整会へ提出予定である。各理事は意見があれば田中理事へ連絡する。
DB委員会の金村委員長からの依頼で、HPのJSSR-DBのバナーを目立つように変更することになった。

9. 指導医制度委員会報告
今年の審査の進捗状況を報告した。次回委員会にて指導医審査におけるJSSR-DB登録症例

の取り扱いについて審議予定である。

10. データベース委員会報告

- JSSR-DBに本日時点で2879件の登録があった。
- 2022年4月からJSSR-DBを通年運用とする方針をDB委員会で再確認した。
- TDR（1椎間）は2022年4月からJSSR-DBに統合する。TDR（２椎間/ハイブリッド）、ACR、OLIF51はしばらく現状通りである。
- 2022年4月のJSSR（横浜）で「JSSR-DBプロジェクトが拓く未来」と題したセッション（30分)を設け、本事業の周知につとめる。
- データベース事務局の人的補強。現在：常勤1名　→　案：常勤1名、非常勤2名を希望する。
- インスト学会のJISI-DBとの連携を2022年4月から行う。学会同士なので、費用は折半する。
  長期目標として、会員であればDB入力されたデータを研究に利用できるなど、会員に還元できるようにしたい
- 来年の学術集会でセッションを設けてもらっているので、会員各位に何を還元してもらいたいかを直接聞いてみたい。

11. 専門医制度委員会報告

第13回の合否を報告した。
今年もそろそろ専門医機構からレビューシート作成を求められる時期になっているが、前回当学会の専門医が機構に認められない原因のひとつとなった「全国の施設の50%に指導医がいること」との条件が25%に緩和されるとの情報がある（現状は30%台)。

12. その他の委員会報告

特になし

13. その他

・第51回学術集会における学会主導研究セッションについて

時間は90分で、以下の8題（8分プレゼン・2分質疑）を予定している。
1. ヒトトロンビン含有ゼラチン使用吸収性局所止血材の査定状況把握のためのアンケート結果
2. 学術集会のあり方・関連学会の連携促進に関するアンケート調査結果
3. 大規模多施設研究によるエビデンス創出を目指して　ー進行中JSSRプロジェクト研究紹介ー
4. 脊椎手術における高位確認に関するアンケート調査（脊椎手術のヒヤリハット）

5. 脊椎脊髄手術における周術期抗血栓薬使用の安全性についての研究: JSSR 会員に対するアンケート調査の結果報告
6. 国内術中脊髄モニタリングの実態　JSSR モニタリング WG 主導アンケート調査
7. どの脊椎脊髄手術に対し脊髄モニタリングは必要とされるか？JSSR モニタリング WG 主導アンケート調査
8. Anterior Column Realignment(ACR)手術の安全性と有効性に関する全国調査報告-日本脊椎脊髄病学会新技術評価検証委員会新規手術データベースを用いた解析研究

・「新年のあいさつ」に同封する文書について

1 月に発送予定の「新年のあいさつ」に同封希望の文書があれば、12/15 までにデータを事務局まで。

・今後の理事会予定

2022 年

1 月 24 日（月）　20：00-22：00
2 月 21 日（月）　20：00-22：00
3 月 28 日（月）　20：00-22：00

・2027 年の学術集会会長の件

松山理事長が、立候補希望者との話がついたので、理事会としても盛り上げていきたいと発言した。

以上

令和 3 年 11 月 29 日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長　松山幸弘

監 事　小澤浩司

監 事　小西宏昭